

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-6		更新日	2025/1/31
サイト名		やまなかしかのすけ 山中鹿之助が尼子再興を目指した宍道湖一望の古城～真山城跡 しんやま			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	松江市法吉町			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台)			
留意点					
サイトの解説	歴史・文化	松江市法吉町の白鹿山(しらがやま)のすぐ北側にある真山(標高256m)の頂上付近にあった戦国時代の山城跡である。 源平の時代、この地をあてがわれた平家の武将薩摩守忠度(ただのり)が最初に築城したとの伝説があるが、史実にははっきり登場するのは、尼子勢の拠る白鹿城を攻めるため毛利軍がここに向かい城を築いて以来である。 雲陽誌では1563(永禄6)年のことで、白鹿城が落城すると毛利の重要拠点として多賀元信が入城し、この方面の押えとした。 しかし1569(永禄12)年6月、尼子再興を図る山中鹿之介(やまなかしかのすけ)は尼子勝久を擁して日本海側から島根半島に上陸、松江市美保関町千酌の忠山(ちゅうやま)に拠ってここを攻め、遂に占拠した。 以来1571(元亀2)年8月、再び毛利の大軍に奪還されるまでは尼子再興の最大拠点となっていた。 現在は山頂部から白鹿城のある南へ向かって階段状に郭が残り、小規模な石積も残っている。山頂本丸跡には、尼子勝久の碑も建てられている。			
	地形・地質、生物・生態等	松江市街の北にある真山とその南の白鹿山は、戦国時代に尼子氏と毛利氏が戦った場所として知られる。この場所は、1600万年前の成相寺層の形成期の火山活動によってできた流紋岩よりなる。半島東部地域では最も火山活動の激しかった所で、鳥ノ子山(とりのこやま)や御岳山(みだけやま)を含めた一帯が流紋岩の塊をなしている。噴火時には深海の海底から突き出した高まりをつくっていたとみられる。なお、山頂から宍道湖が一望できるなど低山のハイキングを楽しむことができる。			
写真・図等					
		山頂からの眺望		尼子勝久公之碑	
参考文献					